



INFORMATION エセナおおた 第7号

平成 15 年 11 月 30 日

発行:大田区立男女平等推進センター区民自主運営委員会



エセナおおたの「たまり場」に遊びにきてください

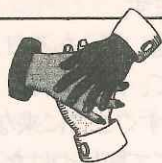
誰かと集りたいときにいつでも仲間が集まり、陽だまりのような暖かい場所で、誰かと話し、誰かに相談し、ゆったりとした気分になって、明るい明日を迎えることができる、そんな場所が欲しいな、と考えてい

るうちに二つのたまり場ができました。たまり場は講座ではありません。申し込みの必要もなく、行きたいときに行ける、そんな自由な場所です。たまり場は、参加者一人ひとりの自主性によって運営されます。



一つ目は、健康な身体で、生き生きと毎日を過ごすための「健康サロン(毎月第3月曜 午後1時半~3時)」です。健康相談から健康づくりまで、専門家と一緒にお茶を飲みながら、みんなで話しあう場所です。

二つ目は、子育て真っ最中のお母さん・お父さんが、子どもと集い、子どもと遊び、親子の輪を広げていく「ぴよたまクラブ(毎月第2・第4木曜 午前10時半~12時)」です。子育て経験のある方たちと話すことで、子育ての窮屈さから解放され、子育てがいつそう楽しくなります。お問合せは区民自主運営委員会へ。



協働フェスティバル「ポスターセッション」

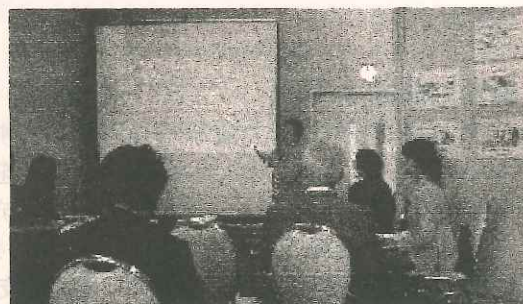
~エセナおおた・文化の森・おおろく~

9月27日、文化の森1階エントランスホールで、エセナおおたと文化の森、おおろくの三者がお互いの交流を深めるとともに、それぞれが考える協働について語り合う「ポスターセッション」が開催されました。

区民による施設運営・事業運営の可能性と、行政との協働のあり方を探るために活発なディスカッションを行い、それぞれの現状報告、お互いが持つ課題を出し合い、討議し、提言にまでいたりしました。

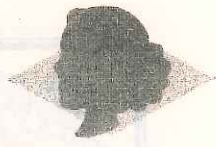
<提言>

- ① 区民が活動しやすい場所となるための施設の管理・運営
- ② 予算削減の委託ではなく、区民参画による区民のための運営
- ③ 区民によるきめ細かい行政サービスと、行政がしなくてはならないサービスの分担
- ④ スタッフの有償化
- ⑤ ボランティアによる事業運営のサポート



夫・恋人からの暴力は犯罪です～ドメスティック・バイオレンスを理解するために

当事者の声を聞く～私はどう変わったか～



10月から来年1月まで第2金曜日の夜、DV講座を男女共同参画社会をめざす大田連絡会と共催しています。10月10日は、恋人からの暴力を受けた経験をバネに、DVコンサルタントとして活動している中島幸子さんのお話をうかがいました。20年近く経った今でも悪夢をみるという中島さん。暴力を受けた傷は終生癒えることがないことを改めて感じさせられました。暴力・虐待を受けた方の心の動きが詳細に語られましたので、DVの相談を受け、「どうしたらいいかわからない」という場合の参考になると思います。



被害者の95%は女性

今日は私自身が被害者だったこと、その経験を仕事にしたいと思ったこと、DVとは何なのか、暴力があるとなぜ逃げられないのかを理解していただければと思ってお話をします。

DVは日本の法律では結婚した夫婦間のみとされていますが、つきあっている人たちの間でも、離婚した人の間でも起こります。児童虐待、高齢者に対する暴力も含まれ、ゲイやレズビアンの間でも起こります。女性が加害者で男性が被害者という暴力もありますが、約95%の場合、加害者は男性です。今日お話しするDVは加害者が男性で被害者が女性を前提にしています。

私の場合は相手と結婚していなかった、一緒に暮らしてもいなかった、子どももいなかったのに何年間も逃げられませんでした。何十年も結婚されている方、子どもがいらっしゃる方がどれだけ大変なのかを想像しながら聞いていただければと思います。



ものすごく大きな恐怖感

私は4年半、暴力のある人とつきあっていました。暴力の前触れは、女性の友だちと会おうとして「普通、つきあっている人同士の間ではそういうことをしない」と言われた時だと思います。そう言われると、他の人たちと時間を過ごすことに罪悪感が生まれ、「会わないようにしよう」と考え始め、少しずつ周りの人から切り離されていきました。最初の暴力は、つきあい始めてそんなに時間が経っていない時でした。顔を殴られた瞬間、あまりにもショックで、なぜ殴られたかを全く覚えていません。相手をパッと見たら、相手の方がもっとショックを受けた様子で、いきなり泣き始めました。「本当にあなたのことが好きだから、許してほしい」、「2度と起こるはずがない」と言われ、「そうなのかな」、「許してあげなくちゃいけない」と思いました。

2度目の暴力はそれから1週間か10日後です。身体を殴られた途端、瞬間的に1回目の暴力が不意なことではなかったことがわかりました。この人はこういう人だと。やはり抵抗しますが、抵抗すればするほど、暴力がひどくなり、力ではどうていかなわないとわかった瞬間、ものすごく大きな恐怖感が出てきました。



暴力は支配のツール

DVは基本的に支配と権力と言われています。被害者がどんなに抵抗しても、この人は私を傷つける力を持っていると理解した瞬間、加害者はこいつはどんなに抵抗しても抵抗できない、自分の支配下にある人間だと感じ取ります。そこで、DVの構造が成り立ってしまいます。暴力は支配と権力を有

効にさせる道具です。一般にDV=暴力と考えられていますが、そんな簡単なものではない。同じ加害者と被害者の間で暴力が何回も繰り返され、支配と権力がどんどん固まっていき、強くなっていくと理解する必要があります。

被害者はものすごく大きな恐怖感を感じると身動きをとること、決断することがむずかしくなり、そういう関係に残ることを正当化します。本当に彼のことを思うなら、見捨てないで一緒にいてあげなくちゃいけない。彼には私がいけないといけない、ほんとは悪い人じゃないと。



変わったのは私

4年半のうち3年間は、私が彼のいいなりになっていた時期です。いいなりになっていれば、確かに暴力は減っていました。少しずつ直ってきたと、すごく錯覚を起こしていた頃です。彼に法律の勉強をしろと言われ、新しい大学に入ったのに、すぐに辞めろと言ってきました。私は彼がいけない場を手放したくなかったので、断りました。すると、最初よりもひどい暴力が出てきました。彼が変わってきていたのではなく、変わったのは私だったことに気がつきました。

最後の6か月間、何回も逃げようとして逃げられませんでした。こわかったのが一番大きかったと思います。新しい学校で、友だちが何か気づいたのか、「もし、あなたがいつか今の関係から出ようと思った時にはいつでも助けるから言ってほしい」と言われたことがあります。一言それだけ。それは、決めるのは私。私が決めた時には、何らかの形で助けるからねという言葉でした。半年間、その言葉をお守りのように、自分の中で持っていたのを覚えています。

つきあいをやめたいと何回も繰り返して、ある日、あまりにもあっさりと「分かった」と言って、帰って行きました。15分位して電話がかかってきて、「今すぐここに来ないよ」と言って、電話が切れました。あわてて駆けつけたら、逆上した彼がいました。ハンドバッグの取り合いから始まって、彼がわめきちらした中に3匹の子猫を殺した話がありました。もし子どもができたら、この人はそういうことができる人だと感じました。今は力がなくて自分を救うことはできないけれども、将来、生まれてくる子どもを救わなくてはいけないと思って逃げだしました。それが私のきっかけです。



DVの関係を断つ

きっかけは人によって全然ちがいます。大切なのは本人が決めることです。DVの関係を断つのは真っ暗な5mか500mかもわからない崖っぷちから飛び降りる勇気が必要です。1回では飛べないことも多い。自分の意思で逃げられたら、あとの人生にもものすごく大きなエネルギーになります。被害者

★「のびやかにわたしらしくメディア社会を生き抜こう！」(3回連続メディア・リテラシー講座)

メディアからの情報を鵜呑みにするのではなく、選択・活用する能力を養うことは現代人にとって必須です。わかりやすさとテンポのある話し方が好評の諸橋泰樹先生(フェリス女学院大学教授 文学部コミュニケーション学科)の講義をお楽しみください。定員：40名(先着順) 場所：エセナおおた 1F 研修コーナー

日にち	テーマ	内容
1月23日(金) 14時～16時	メディアを学ぶ	日頃目になっているメディアが私たちにどのような影響を与えているかについて学びます。
1月30日(金) 14時～16時	メディアに学ぶ	メディアリテラシーの手法を学びます。
2月6日(金) 14時～16時	メディアで表現する	誰でもがメディア発信ができることを理解します。

参加費：無料

保育：1歳以上の未就学児10名まで。300円/1人(おやつ代他)

開催日の3日前までにお申込みください。

会場・申込・問合せ：男女平等推進センター エセナおおた 区民自主運営委員会

TEL 3766-6587 FAX 5764-0604



夫・恋人からの暴力は犯罪です(続き)



が加害者の元に戻ってしまったら殺されるかもしれないと感じたら、ホントに危険だと本人に伝え、一時的避難でもいいからと教えてあげるのも一つだと思いますが、どんな場面でも本人の意思を尊重することがとても大切です。

平穏を取り戻すまで

逃げたあとの精神状態は粉々に小さく引きちぎれています。人は心の中に痛み、つらさ、悲しさ、怒りというマイナスの感情をたくさん抱え込むことはできないので、感情を全部押さえ込もうとします。その時、マイナスの感情だけでなく、プラスの感情も押さえ込んでしまいます。しかし、感情を押さえ込む力は、いつの間にかゆるんできます。ゆるんできた時、押さえ切れない感情がでてきます。これは非常に対応しにくい状態です。自分でもどうしているかもわからなくなってしまいます。そうなった時に、その人の話を本当に真剣に聞いてあげることが必要です。

でも、最初から自分の感情を話せる人は非常に少ないと思います。何から話していいかわからないと思う時には、まず出来事について、何が起こったのかを話します。

出来事が頭の中で浮かび上がってくると、それに伴う感情もあがってきます。DVの場合は怒りの感情が多いといわれています。怒りがでてきたら、次は感情について話し合うというふうに2段階に分けて、何度も繰り返していると、自分の中で抱えているものを少しずつ外に出すことができるようになります。そういったことを繰り返していくと、平穏が少しずつ取り戻されてきます。

私自身はDVの関係から逃げ出して4か月間、遠い親

戚の家に隠れていました。それから、元住んでいた町に戻って2年近く、カウンセリングを受けました。カウンセラーから最初のときに、あなたは何をしていると楽しいですか?と聞かれ、その質問に答えられなかったのが、非常に悔しかったのを覚えています。感覚が麻痺して、自分が死んでいるか生きているかわからなくなると、楽しいとか嬉しいという感覚がわからなくなってしまいます。

30歳の時、自分がすごく嫌だから、自分と一緒にいるのがすごくつらいことに気づきました。嫌で嫌で嫌いな自分と一緒に暮らしていくのをこの先何十年も続けたくないと思いました。その時、自分を好きになることが一番早いと気づいたまではよかったです。自分を好きになるということがまったくわかりませんでした。はっきりした答えは今もまだみえないのですが、その時から自分は何が好きなのか、自分が何をしたいのかを考え始め、DVの経験を何らかのかたちで社会に生かしたいと思いました。自分に力が戻ってきたら、勉強し直して、このようなお話をしようと思いました。

新しい自分を見出す



人生は道にたとえられることが多いですが、私もそう感じます。道を前向きに歩むには、視線が前にいってないと、すごく進みにくい。足下ばかりをみて進もうとしても先が見えない。身近なものでいいので、この先1週間、1か月間、1年間と目標をたて、視線を落とさないように生きていくことが大切だと思います。自分がどこの目的地に向かって歩いていきたいのかを考えて、自分の道を見出していく。元の自分に戻すのではなく、新しい自分を見出していくことがとても大切だと思っています。(まとめ 田中喬子)

森野さかなさんの講演と絵本原画展

こどもの権利を買わないで!

こどもの権利を 買わないで

—プンとミーチャのものがたり—

Don't buy Children's Human Rights
—The Story of Pun and Mitsu—

監修/横田 洋三
文/大久保 晃紀
絵/森野 さかな
挿絵/スズキ 博子



高田国民社

「プンとミーチャのものがたり」から学ぶ、子どもの人権

貧困のために、少女たちが売買春の犠牲になっています。教育を受けられないため、過酷な労働条件の中で働かされる子どもたちがたくさんいます。森野さかなさんの絵本原画展と国連本会議に参加されて感じたことなど、お話していただきます。

参加費は無料ですが、絵本販売の収益を寄付します。

絵本原画展：2004年1月31日～2月12日

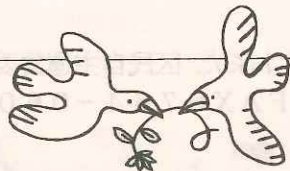
講演：2004年2月8日(日)14時～15時30分

会場：エセナおおた 1階

お問合せ：エセナおおた区民自主運営委員会

tel:03-3766-6587 fax:03-5764-0604

運営委員のひとこと



☆対内的には円滑な事業運営ができるような確かな判断とスピーディーな対応をする総務を目標に。対外的には魅力ある事業内容を以ってエセナの活動をより多くの人に理解してもらえることが目標。個人的には勉強、勉強…。

(HS)

☆男女共同参画社会を推進するエセナおおたの役割をひろげていきたい。(YI)

☆☆☆

エセナフェスタ、ふれあいフェスタへのご協力ありがとうございました。

☆☆☆



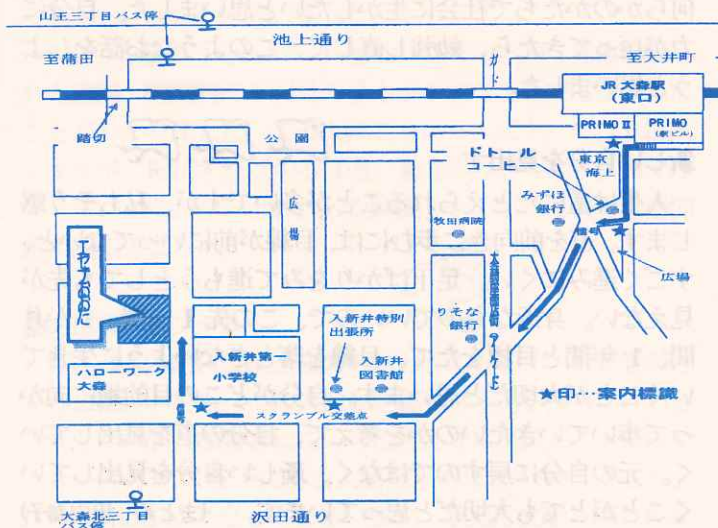
☆昨年に続き会計を担当いたしました。会計は裏方の仕事であり、いろいろな事業を進める上で必要なお金を管理・執行することが本来の仕事と考えがちです。

しかし、目的を達成するには「情熱」が必要であるのと同じく、「お金(予算)」も大切な役目を担っています。もちろん、お金があれば何でもできるとは思いません。昨年同様、限られた予算で、運営委員・スタッフの皆さんには大きな成果が求められています。

そのためにも裏方に徹するのではなく、運営委員・スタッフの皆さんへ、予算執行を通じて、「生きたお金」として使って頂けるよう積極的にアプローチをかけていきたいと思えます。(TN)

1階受付カウンターに『投書箱』を設置しました。ご意見、ご感想をお待ちしています!!

<男女平等推進センター
区民自主運営委員会>



大田区立男女平等推進センター
区民自主運営委員会
東京都大田区大森北4-16-4
〒143-0016 (エセナおおた内)

電話 03-3766-6587

03-3766-4586

(17時以降、土、日、祝は下記へ)

FAX 03-5764-0604

